

くろかわ感染症情報

今回のテーマは

疥癬（かいせん）



疥癬は、ヒゼンダニが皮膚に寄生することでダニの虫体等に対するアレルギー反応や激しいかゆみを引き起こす皮膚疾患です。通常の疥癬と角化型疥癬があり、寄生しているダニの数が大きく違うために感染力が異なります。

	通常疥癬	角化型疥癬
ヒゼンダニの寄生数	1,000匹以下 (多くの患者は数十匹)	100万～200万匹
潜伏期間	4～6週間	4日～1週間程度
感染させる力	弱い	非常に強い
患者の免疫力	正常	低下している
症状	<ul style="list-style-type: none"> かゆみ（特に夜間） 赤い湿疹 疥癬トンネルと呼ばれる特有の湿疹 	<ul style="list-style-type: none"> 角質増殖 (厚い垢が増えたような状態) かゆみが伴わないこともある
感染経路	<ul style="list-style-type: none"> 長時間での肌と肌の接触 まだ人肌の温度が残っている布団やシーツ、ベッドの共有 	<ul style="list-style-type: none"> 短時間で肌と肌の接触 布団やシーツ、ベッドの共有 患者からはがれ落ちる皮膚のかけら（落屑）からの感染

集団感染を
引き起こす！



出店：東京都多摩立川保健所疥癬対応マニュアル

疥癬は感染症法の届出疾患ではないため、保健所が把握した時には、既に高齢者施設などで集団発生している事例があります。



日頃から気を付けること

①皮膚の観察：皮膚がいつもと違う、垢のようなものがついて洗っても取れない、皮膚がポロポロとれる皮疹がある等、異常があるときは早めに皮膚科を受診する。特に新規利用（入所）者はすでに疥癬にかかっている可能性も考慮して十分観察する。

②行動の観察：高齢者はかゆみを訴えないこともあるため、いつもよりかいている、夜間にかいている時は要注意。

③標準予防策の実施：「誰もが何かしらの感染症を持っているかもしれない」と考えて対応すること。具体的には手指衛生、個人防護具（手袋、マスク、ゴーグル等）を状況に応じて使用する、咳工チケット、器具の消毒、環境の清掃などを日頃から行う。



もし症状が出たら？

- ・疑わしい場合は早めに皮膚科を受診する。
- ・顕微鏡等の拡大鏡でヒゼンダニを確認することで診断されるが、確認は容易ではない。1回の受診で診断がつかないこともあるので、もう一度受診することを検討する。
- ・オイラックスクリームは中途半端に殺ダニ効果があるため診断の妨げになる。



治療方法は？

塗り薬や飲み薬で、ヒゼンダニを駆除する。



感染拡大防止対策

疥癬の患者が2人以上（2か月以内）発生した場合は集団発生の対応となり、対応に困る場合は保健所に相談する。1人出たら複数の患者がいることを念頭に、施設全体で共有し、スタッフと利用（入所）者全員の皮膚観察、他の患者がいないか確認する。患者・接触者の帰宅や転出入の際は情報を引継ぐ。

2025年12月23日発行